

講義 標準履修年次は全科目1～2年、下線は隔年開講（便宜上M1とM2に分けて記載した）		専門科目		必修科目 (研究指導)
教養科目		基礎科目		
プロセッサアーキテクチャ特論	M1 前期 (1Q,2Q)	※M1前期で重点的に履修すべき科目 下記の備考を参照のこと	情報伝達特論 コンピュータシミュレーション特論 電子物性特論1 マイクロ波デバイス特論1 非線形システム特論	電子応用工学特別講義1A 電子応用工学特別演習1A 電子応用工学特別実験1A
	M1 後期 (3Q,4Q)		知識情報処理特論1 ナノテクノロジー特論 生体電磁工学特論 電子デバイス特論2 ヒューマンインタフェース特論	電子応用工学特別講義1B 電子応用工学特別輪講1 電子応用工学特別演習1B 電子応用工学特別実験1B
計算機設計特論	M2 前期 (1Q,2Q)		電子物性特論2 バイオコンピューティング特論	電子応用工学特別講義2A 電子応用工学特別演習2A 電子応用工学特別実験2A
	M2 後期 (3Q,4Q)		電子デバイス特論1 情報処理特論	電子応用工学特別講義2B 電子応用工学特別輪講2 電子応用工学特別演習2B 電子応用工学特別実験2B

【修了要件】

必修20単位と教養4単位を含めて30単位以上を修得しなければならない。

【参考】 必修科目

電子応用工学特別講義1A・1B・2A・2B, 電子応用工学特別輪講1・2,  
電子応用工学特別演習1A・1B・2A・2B, 電子応用工学特別実験1A・1B・2A・2B

備考:

修士課程では、学部での基礎・専門教育に続けて、様々な分野の専門性をさらに高め修士論文研究を完成させることを目的として、特に基礎科目は設置せず、全科目1, 2年両方で履修できる形式としている。M2前期においては、複数の教員による中間審査を実施している。



【修了後の進路】

電気・電子・情報関連の分野およびそれらの技術を必要とする広範な周辺分野における、エレクトロニクスを基盤とした電子工学・情報工学に関する高度な知識・技術を必要とする研究職・技術職